

- 1 事業名 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「集まれ！吹奏楽の仲間たち～ミュージックキャンプ2015inテンパーク～」
- 2 趣 旨 吹奏楽を愛好する小中学生が一堂に会し、技術の向上を目指すとともに、交流を深めることで吹奏楽に対する意欲の向上を図る。
- 3 期 日 (1) 平成27年1月5日(月)～6日(火) 1泊2日
(2) 平成27年1月6日(火)～7日(水) 1泊2日
- 4 参加者 吹奏楽を愛好する小学4年生～中学3年生及び引率者

- (1) 小学校4校、中学校11校 323名
滝沢市立鶉飼小学校 岩手大学教育学部附属小学校 宮古市立宮古小学校
宮古市立山口小学校
二戸市立金田一中学校 雫石町立雫石中学校 宮古市立河南中学校
盛岡市立大宮中学校 花巻市立矢沢中学校 大船渡市立第一中学校
宮古市立第一中学校 盛岡市立厨川中学校 奥州市立水沢中学校
花巻市立湯本中学校
- (2) 小学校2校、中学校12校 310名
矢巾町立煙山小学校 盛岡市立城北小学校
北上市立南中学校 北上市立飯豊中学校 一戸町立一戸中学校
矢巾町立矢巾中学校 矢巾町立矢巾北中学校 山田町立山田中学校
盛岡市立北陵中学校 滝沢市立滝沢中学校 盛岡市立城西中学校
陸前高田市立第一中学校 紫波町立紫波第一中学校
<協力校> 滝沢市立滝沢南中学校

5 連携・協力

岩手県教育委員会 滝沢市教育委員会 盛岡市教育委員会
岩手県吹奏楽連盟 岩手県中学校文化連盟 ヤマハ(株)
(有)伊藤楽器店 みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会

6 内 容

- (1) 日 程
○ 1月5日(月)

9:30	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	17:30	18:00	19:30	21:00	21:30	22:00
受付	開会式	アイスブレイク	楽器別講習会(全体)	昼食	楽器別講習会(全体)	レクリエーション	夕食	楽器別講習会(個別)	ミーティング(学校毎)	就寝準備	就寝
				自主練習			入浴				

- 1月6日(火)

6:30	7:00	7:30	8:30	9:30	10:15	11:15	11:45
自主練習	朝のつどい	朝食	楽器別講習会(全体)	移動	ファイナルコンサート	閉会式	解散
		自主練習					

13:30	14:00	14:30	15:00	17:30	18:00	19:30	21:00	21:30	22:00
受付	開会式	アイスブレイク	楽器別講習会 (全体)	レクリエーション	夕食 入浴	楽器別講習会 (個別)	ミーティング (学校毎)	就寝準備	就寝

○ 1月7日(水)

6:30	7:00	7:30	8:30	12:30	13:30	14:30	15:00
自主練習	朝のつどい	朝食 自主練習	楽器別講習会 (全体)	昼食 移動	ファイナル コンサート	閉会式	解散

(2) 指導者

○フルート	渡邊 珠希氏	牧野 詩織氏	
○クラリネット	安藤 満里氏	菊池 澄枝氏	尾前 徹哉氏
○サクソフォン	渡辺 邦夫氏	亀田 幸美氏	亀井 政孝氏
○オーボエ	山本 睦氏		
○ファゴット	持田 富士美氏		
○トランペット	櫻井 伸泰氏	齋藤 恵美氏	佐々木 駿氏
○ホルン	山本 大弘氏	江刺 俊一氏	
○トロンボーン	白籟 弘氏	吉原 正教氏	
○ユーフォニアム	濱田 邦明氏		
○チューバ	谷藤 綾香氏		
○パーカッション	菅田 広耶氏	板垣 あやこ氏	
○コントラバス	菅原 豊人氏		
○合奏指導	佐藤 達郎氏		
○国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 事業推進係	佐々木 克子 寺山 貴大	中村 和宏 長谷川 祐太	丹 康浩

(3) 企画のポイント

今回で4年目を迎える教育事業である。参加希望校が多いため昨年度同様1泊2日の日程を2回行うこととした。さらに、楽器の練習時間をより多く確保するため、キャンプ開始時刻を昨年より早めたり、練習場所をより多く確保するために、研修室以外の談話室やプラザイートーブといった共有スペースを用意し、夜の個別練習の時間の効率的な割り振りを提案した。

内容としては、演奏の技術向上のみならず、小中学生の異年齢の交流や参加校同士の交流の深めるため、開会式後と1日目の夕食前にレクリエーションを行った。1回目は不特定多数の参加者と関わることができるような活動を取り入れ、2回目には、パートや学校などの所属集団を意識させる活動を行った。朝のつどいも参加者が一堂に会し、その日の日程を確認し、参加者の一体感を演出することができた。

以前から要望のあった指導講師の演奏会をファイナルコンサートのプログラムに入れて、吹奏楽に対する意欲向上を狙った。

(4) 広報のポイント

岩手県吹奏楽連盟に加盟している全ての小学校、中学校に開催要項とチラシを送付した。今年、盛岡市小学校管楽器教育研究会に加盟している小学校や吹奏楽連盟に未加盟の滝沢市内の小学校にも要項とチラシを送付し、広く参加を呼びかけた。また、各報道機関にも開催要項とチラシを送付し、取材を依頼した。当施設のホームページにも事業内容を掲載し、応募を呼びかけた。

(5) 運営のポイント

事業を企画するにあたって、滝沢市立滝沢南中学校の顧問、有限会社伊藤楽器の担当者とは会合を持ち、昨年度の反省を活かしながら、事業を企画した。今回は夜の個別指導の運営がスムーズにいくように、あらかじめ個別レッスンの希望を学校に聞き、それをもとにパートごとの練習計画を立て、しおりに掲載した。全体合奏の楽器の並び順についてもしおりに掲載し周知を図った。さらに、1回目と2回目の参加者の入れ替えがスムーズにできるように閉会式後の参加者の動きについて資料を作成し、しおりに掲載した。ファイナルコンサートの流れについては、全体指導の佐藤達郎氏が、講師との連絡の窓口となることで調整を行っていただき、円滑に進行することができた。講師や引率者とミーティングの時間を適宜設け、日程や事業運営についての連絡が周知できるようにした。午前9時から午後6時までリペアコーナーを設定し、楽器の不具合が生じた場合に対応できるようにした。

7 成果とその普及

今回は、レクリエーションの機会を増やしたことで引率者からは、「レクリエーションをしてもいいよ」という声も聞かれました。小学生の生活の充実が感謝の気持ちで参加した人が多かった。自分たちの技術向上のきっかけになった。楽器の技術向上の目玉であるこのキャンプには、「他校の皆さんの演奏を聴いて、自分にはないものを感ぜたい！』という思いが強くなったし、意欲がわいた。」「自分も技術面も向上したし、コミュニケーション能力や他校の皆さんとの絆も演奏をとおして深まったと思う。」「相手の良いところをたくさん吸収して、自分の基礎力を高めることができた。」「他校と比べて、まだまだ練習が足りないと思ったので、もっと練習したい。」と思ったし、他校の人と仲良くなれたと思うので良かった。」という声も聞かれた。小学生は、中学生の演奏を聴いて刺激を受けたし、中学生同士ももうまいと思う学校の音が聞けて意欲の向上につながった。地元紙の岩手日報から、取材を受け、1月6日と7日の朝刊に記事が掲載された。県民にもこのキャンプについて広く知っていただく機会となった。4年間をとおして、この事業が吹奏楽に関わる小中学校の先生方に周知され、連続して参加していただいたり、参加者が定員を大きく上回り参加をご遠慮いただいたりした年もあった。ニーズの大きさ、引率者の先生方の熱意が伝わった。引率者の先生から年々運営が良くなっていったとの意見をいただいた。今年度で国立岩手山青少年交流の家主催のミュージックキャンプは終了する。来年度は、中学校教諭を中心とした新たな団体が発足し、当施設主催のミュージックキャンプを踏襲するキャンプを行う予定である。

8 今後の課題

ミュージックキャンプを上回る、より良い体験活動の機会を提供する事業を新規に立ち上げるための計画立案をこのキャンプの実践を踏まえ、しっかりと行いたい。



仲良くなれたかな



音を聴き合いながら



心を一つに